

自由のともび

JIYU NO TOMOSHIBI

VOL. 86

2019 March



「自由萬歳」の酒杯

- 企画展「没後100年 板垣退助の志」
- 学習用教材できました!
板垣退助ブック一言論で国を動かそうとした男一
- 第95回高知近代史研究会報告
高知の近代部落史—『高知の部落史』近代Ⅱ—
- 伊予鉄総合企画株式会社主催 博物館講座
「名文句でたどる土佐の自由民権運動」
- 第19回社会科自由研究作品展報告

■リレーエッセイ 酒杯に浮かぶ「自由萬歳」

明治維新後、近代日本の政治風土に多大な影響をもたらした自由民権運動。その自由と民権の気運も時代の奔流に押し流され、組織内の軋轢や求心力の低下などを招来し、ついには1884(明治17)年自由党の解党にまで及んだ。

その後、板垣退助や後藤象二郎らは小異を捨て大同を唱えて全国各地を遊説、いわゆる「大同団結運動」が展開するが、殊に東北地方への遊説は実効性をともない、その中核にいた人物の一人が「重野謙次郎」である。「自由萬歳」「自由棲處是我郷(自由の棲む処これ我が郷)」と盃の見込に描いた本人である。1891(明治24)年1月に出版された『天日本名士傳』(山寺清二郎編述兼出版人)によれば、1854(安政元)年12月に山形県天童に生まれ、明治初年に東京に遊学、帰郷後、1880(明治13)年「法律学社」を郷里の山形に創設、社長に任じ青年子弟に法律を教授するかわら、自由民権の拡張を図り、その演説は山形県下での政談演説会の嚆矢とされている。

また、「政治結社」「東英社」を組織し「自由主義の根柢を羽陽の地盤に深く挿入」累々たる自由民権の美果を結びたる」と評され、続く1881(明治14)年7月には山形県会議員に就任、山形に東北7県の自由民権の有志を会し「東北義会」を組織するなど、東北全域に多大の影響を持つにいたった。時に中央政界では自由党解党後、地租の軽減や言論集会の規制弾圧、条約改正の不手際等を抱える政府に在野勢力の批判が集中し、これらを機に自由民権派の結束が図られ、後藤象二郎らによる東北地方への遊説が実施された。重野は、後藤に相会し「其の主義を賛し平素の满腔熱血を吐露し微軀を抛ちて大同派の為に盡す所あらん」と誓ったとされ、「自由萬歳」等の盃は、こうした機会の酒席に数多く配られ使われたものと推察される。

「没後100年 板垣退助の志」

◆期間 2019年4月27日(土)～6月30日(日)

◆会場 1階 自由ギャラリーI

無入料場



板垣が目指したもの

板垣退助は、1837(天保8)年に高知城下に生まれ、1919(大正8)年に83歳で生涯を閉じました。今年で、板垣が世を去ってから100年の歳月が経ちます。

「板垣死すとも自由は死せず」の名言とともに、自由民権運動の代表的指導者として、知られる板垣ですが、自由民権期の活躍にとどまらず、数多くの事績を残しています。没後100年の節目に、当館が所蔵する板垣退助関連資料を通じて、板垣の足跡を振り返るとともに、知られざる後半生にも注目し、板垣が目指したものに迫ります。

板垣が遺した品々

今回の企画展では、ご子孫が大切に保管している板垣ゆかりの歴史資料で、当館が寄託を受けている品々を公開します。洋行中にルイ・ヴィトンのパリ本店で購入したトランクを始め、皇室からの贈り物など、貴重な資料ばかりです。



「皇室より下賜されたボンボンニエール(銀製の小型菓子器)」(個人寄託・当館保管)
4～6cm四方と小さいながらも、八稜鏡など慶事にふさわしい意匠に加え、周囲にはおめでたい鶴や松が精巧に刻まれるという凝った造り。

NHK放送番組

「歴史秘話ヒストリア」に

板垣退助登場!

戊辰戦争従軍から立志社創立にかけての活躍を中心に、自由を求めた若き日の板垣の姿を追う内容になっています。3月に当館で取材及び撮影が行われ、5月に放送される予定です。再現ドラマもあるそう、誰が板垣を演じるのか、楽しみでもあります。

本企画展を通じて、板垣が生きていた時代に思いを馳せ、その生き方や人柄をさらに知っていただく機会となればと思います。

板垣退助銅像(高知城登り口)

このように、板垣は、政界引退前後から晩年まで、急速な資本主義の発展のために引き起こされた社会問題に取り組み、私財を投げ打って、雑誌『友愛』や『社会政策』を発行して世論の喚起に努めました。この晩年の活動に限界はありましたが、労働・福祉・社会保障政策における先駆的活動であったといえるでしょう。



『社会政策』(当館蔵)
論題からも様々な分野への提言をおこなっていることがうかがえる。

ギャラリートーク

企画展のみどころを当館館長が解説します。

- 日時 2019年5月11日(土) 14時～(約30分)
- 集合場所 1階自由ギャラリー入口

申込不要 入場無料

記念講演会

「立憲自由党の成立」

公文 豪氏(高知大学非常勤講師)

- 日時 2019年6月15日(土) 15時～17時
- 会場 1階 民権ホール

※参加無料・駐車場あります

申込不要

学習用教材
できました!

板垣退助BOOK

「言論で国を動かそうとした男」

これを
あなたも
退助博士!

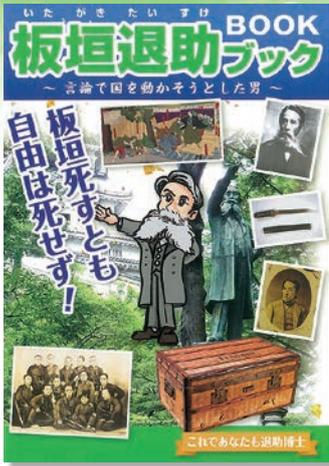


今回、当館における学校教育連携事業の一環として、開館以来初めての本格的な学習用教材となる『板垣退助ブック』(「言論で国を動かそうとした男」(以下「ブック」とい))を作成しました。

【目的】

これは、郷土の先人であり、2020年度から全面实施される新しい小学校学習指導要領においても、取り上げるべき人物の一人とされている「板垣退助」(以下「退助」とい)に関する副読本を作成し配布することで、子どもたちに退助や自由民権運動の歴史について理解を深めてもらうとともに、同本をテキストとした出前授業や教員向け研修の実施等、学校現場への学習支援を行うことを目的としています。

また、「ブック」を活用することで、「小学校学習指導要領解説社会編」(2017(平成29)年6月文部科学省)で示された次の事項に対応できるため、学校側に



とつてもメリットがあるものと考えています。

- 授業において、新聞や公的機関が発行する資料等を一層活用すること。
- 教科の内容に関係する専門家や関係諸機関等と円滑な連携・協働を図り、社会との関わりを意識して課題を追求したり解決したりする活動を充実させること。
- 博物館や資料館、図書館などの公共施設についても引き続き積極的に活用すること。
- 教員を対象とした研修の充実に努めること。

【構成】

『ブック』の構成は次のとおりです。もくじ及び人物関係図

(本編)

- 少年「猪之助」から侍「退助」へ
- 江戸幕府がたおれる 倒幕運動と退助
- 新しい政府をつくる 明治政府と退助
- 自由民権運動が広まる

退助、自由党総理に

(資料編)

- 国会が開かれる その後の退助
- 板垣退助あれこれ
- 板垣退助略年表
- 高知市中心部民権史跡案内図
- 関係施設(博物館・図書館)紹介

【工夫】

『ブック』は、小学6年生を対象とした学習用教材として、次のような工夫を加えて作成しています。

① 編集作業に教員が参加

『ブック』の大きな特徴は、編集作業に学校教員が参加していることです。

今回は、高知市教育研究会社会(小)部会から推薦のあった3名の会員(教員)を編集会議へ招聘し、企画・編集の過程において、学校教員ならではの貴重な意見を多数いただき、それを反映することができました。

② 教科書に対応した内容

本編については、高知市内の小中学校で使われている教科書(『小学社会6上』教育出版)のうち、日本近代史を学習する項目に対応した内容となっています。

(構成)で紹介しているタイトルのうち、傍線部分は、教科書と同じタイトルを採用しています。

また、退助の視点で日本近代史を俯瞰すると同時に、同時代における土佐・高知での出来事も紹介しており、教科書を『ブック』に置き換えて日本近代史の授業を行うことも可能です。

③ 教員向け「解説」の作成

『ブック』の使用は学校教員の判断に委ねられます。そのため、同本の構成意図や掲載内容について補足説明した教員向けの「解説」を作成しました。

これには、教員の下調べ等にかかる負担を削減するとともに、授業で使用されなくても、教員自身に同本を参考資料として退助や自由民権運動についての理解を深めてもらうというねらいがあります。

※『ブック』作成の経過については、当館紀要24号で詳しく紹介していますので、ぜひ御覧ください。

【配布】

『ブック』は、高知市内に通学する小学6年生全員を対象に、2018(平成30)～2020年度の三か年度連続して配布いたします。

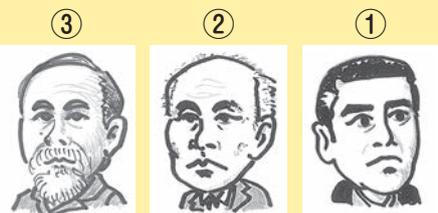
これは、少しでも多くの子どもたちに『ブック』を配布することはもちろん、学校教員へ繰り返し『ブック』を周知していくために三か年計画としたものです。

今回の『ブック』作成・配布事業を通して、今後の学校教育連携推進に関する多くのヒントを得ることができました。

特に、学校教員との連携を実践できたことは大きな成果であったと思います。次年度以降も『ブック』を使った教員向け研修や授業計画提案の実施等、学校教育との連携推進に取り組んでいきます。

Quiz この人だ〜れだ?

『ブック』の人物関係図に登場するイラストです。誰だか分かりますか?



※答えは6ページにあります。

高知の

第95回 高知近代史研究会報告

近代部落史

『高知の部落史』 近代Ⅱ

吉田 文茂（高知近代史研究会副会長）

2018(平成30)年9月8日、第95回 高知近代史研究会で報告した要旨を掲載します。

1978(昭和53)年に「高知県における部落史研究の進展と同和教育への寄与」をめぐり高知県部落史研究会が結成され、今年で40年を迎えた。この間、高知県における同和教育の推進と部落史の掘り起こしに関して一定寄与できたものの、1980年代後半をピークにして会員数の減少と固定化が進んだ。そこで、結成40年を機に、高知県部落史研究会は解散することにし、これまでの成果を一冊の本にまとめることにした。2017(平成29)年7月に刊行した『高知の部落史』(解放出版社発売)がそれである。同書は第一部「中世・近世」と第二部「近代」に分かれ、第二部の「第六章 部落改善へ」、「第七章 融和と水平」、「第八章 昭和恐慌以降の部落差別撤廃運動」、「第九章 戦時下の部落問題」を担当した。

内容の概略として、最初に、1900年代からはじまる部落改善が高知県においてどのように展開されていくのかという点に注目し、自主的にはじめられた改善

運動がしだいに官主体の部落改善政策として定着していく様子を見た。その際、部落内の有力者とともに官公庁の職員や警察官、さらには周辺の有力者などの温情に依存するようになったことと、その活動も当初は風俗改良一点張りであったのが、部落の経済向上に力点を置いて「貧困」からの脱却がめざされたことが特徴的であった。

1916(大正5)年以降、高知県段階での部落改善が本格化するが、1919(大正8)年10月の高知県公道会の結成によって、部落改善から融和への移行が開始される。高知県公道会は当初は部落改善団体としてスタートするが、全国水平社の結成や中央での融和団体の再編の動きを受けて、1925(大正14)年に組織的性格を変更して融和団体へと衣替えをおこなう。機関誌『公道』を発行し、国民融和日にはポスターやリーフレット配布、自動車利用路傍宣伝、融和標語発表、町村長・学校長への通牒、県民に対する知事訓示の新聞への掲載、融和日絵葉書の使用など、県民に対する融和親善のとりくみを強化していった。



『高知の部落史』(2017年7月刊行)

一方、1923(大正12)年4月5日に結成された高知県水平社は全国水平社の宣言、綱領、決議にそって運動を展開し、いくつかの差別事件では徹底的な糺弾闘争を展開していった。しかし、高知県全体をカバーするほどの組織的勢力を持つことはなく、大きな広がりは見られなかった。この水平社の組織の脆弱性をカバーしたのが自主的に展開された融和運動であった。特に、植村省馬を中心とする高知県自治団は水平運動家も吸収して、高知県公道会とつかず離れずの状態を保ちながら、部落差別撤廃を訴えていった。

1930年代になると、水平社の組織化は農民組合の組織化と連動して進められ、長浜町長差別事件糺弾闘争のように、「全農と全水との共同闘争」として一定評価されることとなる。そして、その運動のなから戦後の部落解放運動を担う若手活動家も登場してくるようになる。

融和運動の側では、融和教育と青年融和運動、婦人融和運動の推進が叫ばれ、1930年代の高知県の融和運動を代表していく。研究指定校の発表など融和教育の推進は戦後の同和教育の発展に結びつき、青年融和運動に新たに参加した青年のなから戦後の部落解放運動家も数多く登場してくる。

また、1932(昭和7)年からはじまる部落経済更生運動は高知県においても産業奨励や経費節約等の徹底を通じて部落の経済的安定が目指された。この時、強調されたのが「自力更生」であり、経済更生を実現させるためには、それを担う人材の養成は欠かすことができなかった。中堅人物養成講習会を受講した若者の多くは青年融和運動の担い手でもあったが、戦中から戦後にかけて各部落内の指導者として成長していく。戦後、同和事業は新たな形で実施されていくが、その担い手の多くは戦前・戦中の運動の担い手でもあった。

名文句でたどる

土佐の自由民権運動

筒井 秀一(高知市立自由民権記念館館長)

2018(平成30)年12月14日、当館指定管理者である伊予鉄総合企画株式会社が主催した博物館講座の要旨を掲載します。

言論戦と名文句

自由民権運動は言論によって世論に訴え、同志を増やし、その力で世の中を変えていくという運動であった。したがってメッセージをどう表現し伝えるかに、努力を傾注した。そこから名文句といえる表現が生み出されてきたといえる。

明治10年土佐の選択

1877(明治10)年、西南戦争に対して土佐の士族、とくに板垣率いる立志社の動向が全国の注目を集めた。様々な意見が渦巻いたことと思われるが、東京や立志学舎で西洋政治思想を学んだ若手は、拳兵論に傾くことなく、早くから演説会と雑誌発行の準備を進めていた。

大衆に向けた演説会は6月から、雑誌発行は8月から開始された。板垣も8月、我が立志ノ民権ヲ一町ヨリ一區ニ及シ、一區ヨリ一県ニ及シ、各員全国ニ及シ、衆力一致ノ上、大政府ニ向テ為ス所アルニ如カス」と述べた。こうして言論戦としての自由民権運動が本格的にスタートし、名文句も続々と登場した。

明治10年の名文句

◆「自由は土佐の山間より」植木枝盛
『海南新誌』第一号(明治10年8月25日)の

「緒言」に「天下ノ人稱シテ、自由ハ土佐ノ山間ヨリ發シタリト云フコトアルニ至レハ」とある。高知県ホームページには「平成12年9月高知県議会定例会において請願が全会一致で採択され高知県のシンボリックな言葉として位置づけられました。」とあり、「高知県詞」となった。

◆「明治第二ノ改革ヲ希望スルノ論」植木枝盛
『海南新誌』第五号(明治10年9月22日)掲載の論文名である。

植木は「戊辰ノ如キハ、政府ノ変換ニシテ政体ノ変革ニ非ズ」要スルニ、今日ハ則更ニ又第二ノ改革ヲ為シ」と述べ、これから第二の改革を成し遂げることを主張した。

◆「世ニ良政府ナル者ナキノ説」植木枝盛
植木枝盛日記(明治10年11月24日)に「演説会 世に良政府なきを論ず」とあり、「人民ハ政府ヲシテ良政府ナラシムルノ道アレドモ、政府単ニ良政府ナルモノナキナリ」「夫レ政府ハ単ニ良政府ナシ、人民唯之ヲ良政府トナラシムルノミ」と演説している。

演説会の演題と民権歌謡と鉢巻

◆機関誌の論説は演説内容と連動していると考えられる。例えば「独裁政治ノ不善ナルヲ論ズ」坂南洋(『海南新誌』第二号 明治10年9月8日)、「人民ノ御シ難キハ国家ノ幸福ナルヲ論ズ」秋山清造(同第十一号 11月10日)、「専制政府ハ火山ノ頂ニ坐スルカ如キノ論無署名(『土陽新聞』第二九号 明治11年3月30日)などである。

◆民権家は、歌にも自由民権の思想を盛りこ

んだ。

「民権教へ歌(明治10年) 植木枝盛作

「一つとせ 人の上には人ぞなき 権利にかわりがないからは この人じやもの」

「よしや武士(同年) 安岡道太郎編

「よしや 南海苦熱の地でも 粹な自由の風が吹く」

これらは、「此節高知で流行する俚謡は一中略一ヨシヤブシならざるはなし」(『大坂日報』明治11年1月25日)とあるように大いに流行した。

なお、このような歌は歌詞が追加されることがあり、安岡の編さんには含まれていない歌詞で、後に高知の料亭で歌われていたものに次がある。「よしや 圧制するならさんせ ルイ16世の末を觀よ」

◆1878(明治11)年3月7日の招魂祭に「各社少壮の輩」が隊伍を組んで参詣したが、その鉢巻には、「民権自由」享自由不燃死耳」「自由棲処是我郷里」などと記していた。(『土陽新聞』第三四号 明治11年4月10日)

植木枝盛という才能

やはり、植木枝盛には、今で言えばコピーライターとして天賦の才能があったといえる。ここまで紹介した以外にも、「自由ハ鮮血ヲ以テ買ハザル可カラザル論」(『湖海新報』十一号 明治9年6月)、「男女同権ハ海南ノ某一隅ヨリ始ル」(『高知新聞』明治14年8月31日)、「生キテ奴隷ノ民タラン与リハ死シテ自由ノ民タラン」(『三大事件建白書』明治20年)、「未来が其の胸中に在る者之を青年と云ふ」(『無天雜録』明治22年2月18日)などがある。

その他の名文句

これ以外にも、多くの名文句があり、自由民権運動を彩っている。

◆「板垣死すとも自由は死せず」(明治15年)

◆「頼む所は天下の輿論 目指すかたきは暴虐政府」馬場辰猪(『The Political Condition of Japan (日本政治の状態)』明治21年)

◆「国家の將に滅亡せんとする 之を傍觀座視するに忍びず 寧ろ法律の罪人たるも 退て亡国の民たる能はず」(『保安条例廢止の建白書』明治20年)

◆「自由は取る可き物なり 貰う可き品に非ず」中江兆民(『自由平等経論』三号 明治24年4月1日)

パトリック・ヘンリー Patrick Henry の影響

パトリック・ヘンリーは、アメリカ独立革命の英雄の一人で1775年3月23日の演説の末尾「Give me liberty or give me death」(我に自由を与えよ 然らずんば死を!)で知られている。民権家もこのフレーズに感銘した。

すでに紹介した「享自由不燃死耳」「生キテ奴隷ノ民タラン与リハ死シテ自由ノ民タラン」にも影響を見ることができ、直接的には、民権踊り「米國獨立曲」(『高知新聞』明治14年8月1日)に「中に抜群(すぐれ)しパトリックヘンリー 眼血走りつ、たちあがり 我に自由を与よ神よ 自由なければ死を与へよ」とあり、植木も「自由詞林」(明治20年10月7日出版御届)で「さればパトリックヘンリーは天に誓ひて 吾々に 自由を昇へよ 否らずば 死を授けよと 叫びけり」と謡った。

このように、土佐の自由民権運動は数多くの名文句に彩られている。



第19回

社会科自由研究 作品展報告



当館マスコットキャラクター「じゅっぴー」

前期 平成31年1月23日(水)～2月7日(木)
後期 2月9日(土)～2月24日(日)
共催 高知市教育研究会社会科部会

この作品展は、当館開館10周年を記念して始まり、今年で19回目となります。今回も「歴史」「人物」「地理・文化」「体験」など全8分野に数々の力作が出品されました。

小学校35校、義務教育学校1校、中学校2校から合計246名の応募があり、その中から38点を特別賞に選定し、2月2日(土)に表彰式を開催しました。



表彰式の記念撮影



展示の様子



「鏡の風音」さんによるオカリナ演奏会

期間中1,229名の皆さんにご覧いただきました。
実施したアンケートでは、「とてもすばらしい作品ばかりで読んでいてワクワクしました!」「子どもたちの発想ときちんと最後まで取り組んでいることに感動しました」「どれもよく研究されていて毎年楽しみにしています」「全作品の展示が嬉しかったです。子どもも喜びました。ぜひ毎年続けてください!!」などの意見をいただきました。皆さんのごもありがとうございます。

第19回社会科自由研究作品展 特別賞38作品

| 賞 | 分野 | 学校 | 学年 | 氏名 | 作品名 |
|---------------|-------|---------------|--------|-------|---------------------------|
| 自由民権記念館特別賞 | 地域・福祉 | はりまや橋小学校 | 3 | 岡林 修司 | 高知県の図書館調べ |
| | 産業・交通 | 大津小学校 | 3 | 藤原 快成 | 発見!高知のナンバー1しようが |
| | 体験 | 秦小学校 | 4 | 野町 健太 | 紙はどうやってつくられているのか |
| | 人物 | 高知大学教育学部附属小学校 | 4 | 小松 優日 | 川井家をさぐる |
| | | | 6 | 小松 愛桜 | ～大豊町立川の名門・川井家～ |
| | 環境 | 高知大学教育学部附属小学校 | 5 | 太田希乃香 | 環境モデル都市 一歩先行く橘原町 |
| | 地理・文化 | 五台山小学校 | 5 | 蒲原 拓樹 | 宇津野すい道ができる前 |
| | 歴史 | 神田小学校 | 6 | 松田 紗門 | ぼくらが忘れてはいけない吉野の戦争の話 |
| | 総合 | 鴨田小学校 | 6 | 松本 泰誠 | ひばあちゃんの見た広島 |
| | ふるさと賞 | 環境 | 一宮東小学校 | 4 | 西山 来希 |
| 高知大学教育学部附属小学校 | | | 6 | 島崎 心花 | 海が悲鳴を上げています 海のゴミ問題について考える |
| 立志社賞 | 産業・交通 | 高須小学校 | 3 | 辻 美乃莉 | おじいちゃんのおいしい文旦 |
| | | 鴨田小学校 | 4 | 筒井ひかり | 道の駅のそばには面白いものがいっぱい |
| | | 三里小学校 | 5 | 植村 英太 | カツオ大研究 2018 夏 |
| | | 旭東小学校 | 5 | 高橋 慧伍 | 知っているけど知らない 道路の標示や標識 |
| | | 一ツ橋小学校 | 6 | 秋山 也実 | 地野菜って何だろう? |
| | | 高知大学教育学部附属小学校 | 3 | 正木 秀美 | 史跡めぐり 宿毛 |
| 夢・人・自由賞 | 人物 | 潮江東小学校 | 4 | 久武 應介 | ジョン万次郎と人生をかえてくれた人 |
| | | 初月小学校 | 5 | 大坪 奈央 | 植木枝盛～行動する思想家～ |

| 賞 | 分野 | 学校 | 学年 | 氏名 | 作品名 | | |
|---------|-------|---------------|-------|---------------|-------------------------------|-------|--------------|
| よさこい民権賞 | 総合 | 高知大学教育学部附属小学校 | 1 | 西村 帆禾 | 100ねんまえの1ねんせいといまの1ねんせい | | |
| | | 春野東小学校 | 4 | 宮地 盟 | 春野町の用水路 | | |
| | | 高知大学教育学部附属小学校 | 5 | 清水 奏仁 | めざせ自給率100%! 地産地消クッキング in 高知 | | |
| | | 朝倉小学校 | 6 | 行貞 深尋 | 西日本豪雨とボランティアについて | | |
| ジョン万次郎賞 | 体験 | 鴨田小学校 | 4 | 一色 優汰 | 四万十川の沈下橋に全部いってみたい! | | |
| | | はりまや橋小学校 | 4 | 宮部 彩 | のいち動物公園の脳性まひのチンパンジーミルキーと私の成長記 | | |
| | | 横浜新町小学校 | 5 | 河添 真宙 | 京都に行って学んだこと | | |
| | | 朝倉第二小学校 | 6 | 應儀 史玖 | カンボジアについて | | |
| | | 自由のともじび賞 | 地域・福祉 | 高知大学教育学部附属小学校 | 3 | 松井 結叶 | やさしさを見つげに行こう |
| | | | | 朝倉第二小学校 | 3 | 松尾 聡子 | 寺ヶ谷地区の防災と安全 |
| 横浜小学校 | 5 | | | 藤本 駿 | 命を守る防災マップ | | |
| 植木枝盛賞 | 地理・文化 | 高須小学校 | 4 | 竹村 胡美 | 日本の郷土料理 | | |
| | | 義務教育学校土佐山学舎 | 4 | 松本伊生里 | 2018W杯 出場国の料理 | | |
| | | 昭和小学校 | 5 | 要 美帆 | 特別天然記念物 土佐の長尾鶏 | | |
| | | 第四小学校 | 6 | 吉村紘太郎 | 室戸ユネスコ 世界ジオパーク | | |
| | | 高須小学校 | 1 | 武井 基樹 | にんじゃのたべもの | | |
| | | 旭小学校 | 3 | 平井 美暖 | ご先祖さまを調べました | | |
| 板垣退助賞 | 歴史 | 潮江南小学校 | 5 | 楠瀬 耀 | 祖父といつしょに取り組んだ堺事件 | | |
| | | 第四小学校 | 6 | 小澤 禱 | 土偶って何…!! | | |
| | | 春野西小学校 | 6 | 中谷 亮翔 | 家紋について | | |

◆「泥めんこ」出現

自由民権運動の時期には、「自由」や「民権」さらに「板垣」などが、はやり言葉として人びとの間に広まっていたと思われます。

高知市民図書館近森文庫には「板垣」「自由」の「泥めんこ」があり、当館で開館以来常設展示しています(写真1)。「泥めんこ」とは、おはじきのような遊び方をしたと考えられる土器製の玩具で、家紋、動物、植物などの絵模様や型押しされています。

この「泥めんこ」に「板垣」や「自由」が表現されていることは、自由民権運動が玩具にまで映し出されて、興味深いところですが、こうした「泥めんこ」の新たな登場を期待していたところ、近年、市街地の発掘調査で驚きの出土がありました。



写真1 近森文庫より。「自由」「板垣」

■追手筋遺跡(オーテピア)

2013(平成25)年8月～2014(平成26)年2月に、高知県埋蔵文化財センターが実施したオーテピア(新図書館等複合施設)建設にともなう、「高知市追手筋遺跡」発掘調査で、「板垣」「相原」「自」「憲」が出土しました(写真2)。「相原」は1882(明治15)年岐阜で板垣が襲撃された「板垣遭難」の犯人相原尚賢と思われる。「板垣」と「相原」を戦わせたのかもしれない。「自」は「自由」、「憲」は「憲法」を連想させます。さらに「自由」が反転した、すなわち型となるものも出現しました。もしかするとこれに粘土をつめて「自由」を取り出す型遊びに使ったものかも知れません。

この土地は、1872(明治5)年から小学校用地であり、子供たちが「自由」の「泥めんこ」を自作して遊んでいたと想像するのも楽しいことでしょう。



写真2 高知市追手筋遺跡(オーテピア建設地)より出土。「板垣」「自」「相原」「憲」、「自由」の型



■帯屋町遺跡(高知県自治会館)

2015(平成27)年3月に高知市教育委員会が実施した、高知県自治会館新庁舎建設にともなう「高知市帯屋町遺跡」発掘調査により「板垣」「相原」「民」が出土しました(写真3)。「板垣」は大・小があり、「板垣」の特別な存在感を物語っています。

写真3 高知市帯屋町遺跡(高知県自治会館新庁舎建設地)より出土。「板垣」(大・小)「相原」「民」



■帯屋町遺跡(高知市役所新庁舎)

2017(平成29)年4月～2018(平成30)年10月に高知市教育委員会が実施した、高知市役所新庁舎建設にともなう「高知市帯屋町遺跡」発掘調査により、「板垣」「相原」「民権」が出土しました(写真4)。ここでも「板垣」の大きさが注目されます。



写真4 高知市帯屋町遺跡(高知市役所新庁舎建設地)より出土。「民権」「相原」「板垣」

●報告書は、「追手筋遺跡—新図書館等複合施設建設に伴う発掘調査報告書—」が高知県立埋蔵文化財センターホームページの「刊行物」で、「帯屋町遺跡—高知県自治会館新庁舎建設に伴う埋蔵文化財発掘報告書—」が奈良文化財研究所ホームページの「全国遺跡報告総覧」で、閲覧できます。

高知県から感謝状

2月15日(金)「志国高知幕末維新博推進協議会第14回運営委員会」において、幕末維新博地域会場の貢献に対して高知県から自由民権記念館などに感謝状が贈呈されました。



収蔵資料の出版 ～旅する資料～

宮崎市安井息軒記念館主催の企画展「自由民権運動と安井息軒の弟子たち」(3月10日(日)終了)に収蔵資料を出品しました。

当館からは「自由万歳徳利(複製)」「板垣総理被害短刀(複製)」「国会寿語録」を出品し、企画展の充実に協力しました。

自由万歳徳利(複製)

出版物のお知らせ

3月末発行

『高知市立自由民権記念館紀要 第24号』

500円(税込)

●論文

「人民平均の理」

～形成過程と評価の再考～……………高木 翔太
昨秋に開催された高知近代史研究会での講演「高知藩の時代」をもとに書き下ろしたものです。聴き逃した方は是非一読を。

●資料紹介

幸徳秋水の写真及び書簡……………筒井 秀一

●報告

高知市立自由民権記念館における学校教育連携事業
～「板垣退助」を題材に～……………木下 達哉

The Birth and Growth of Modern Japan – The First Decades
／近代日本の出発

……………高知県立大学国際日本学受講生

行事予定 (春・夏)

予定は変更になる場合があります。詳しくは自由民権記念館までお問い合わせください。

開催中～4月7日(日)

■企画展

「明治第二ノ改革 —自由民権—を志した人々」

会場：2階特別展示室
※常設展観覧券が必要

4月29日(月・祝) 15:10～17:00

申込不要

◆自由民権記念館友の会総会・記念講演会

「横山又吉と高知商業」 —民権家横山又吉と教育者横山又吉—

講師：柳井 正持氏
(元高知市立高知商業高等学校校長)
会場：1階研修室
※総会 13:30～

4月27日(土)～6月30日(日)

■企画展

「没後100年 板垣退助の志」

会場：1階自由ギャラリー
※入場無料

6月15日(土) 15:00～17:00

申込不要

■高知近代史研究会第98回研究会

「没後100年 板垣退助の志」 記念講演会

「立憲自由党の成立」

講師：公文 豪氏
(高知大学非常勤講師)
会場：1階民権ホール

7月20日(土)～2020年4月5日(日)

■市制130周年記念企画展

「高知市の今昔」展(仮)

会場：2階特別展示室
※常設展観覧券が必要

7月31日(水) 予定

■夏休み子ども歴史教室

小中学生が、館内で自由民権運動に関するクイズラリーに挑戦。
※学校を通じて申込受付



平成31年4月1日からの 指定管理者について

当館は、平成22年4月から施設管理業務に指定管理者制度を導入しています。平成31年3月に第3期の指定期間が終了することから、昨年、次期指定管理者を募集。審査の結果、4月1日から伊予鉄総合企画株式会社高知営業所が引き続き指定管理者となります。

指定管理者は、施設・設備の使用許可や維持管理に関する業務のほか、自主企画としての企画展やイベント等を行います。引き続きよろしく申し上げます。

なお、学芸企画業務はこれまで同様に高知市が直営で行います。

ごあいさつ

この度、自由民権記念館の指定管理者として第3期目に引き続き第4期目の指定をいただきました「伊予鉄総合企画株式会社」です。

自由民権記念館は名前のとおり「自由民権運動」をテーマにした博物館であり、自由民権運動の高まりの中で生まれた高知市が市制100周年を記念して建設した高知市のシンボリックな教育施設です。近代社会に大きな役割を果たした土佐の先人の思想や願いを後世に継承していくことを目的とした施設であると考えています。

指定管理者として、常設展示の利用者には貴重な資料をご覧いただきながら、理解を深めていただけるような展示解説や子供から大人までが自由に参加できるワークショップなど自由民権記念館を様々な目的で利用いただけるよう普及啓発に注力していきます。

これまでの経験を活かし、地域の中の公共の教育施設としての役割が果たせるよう確かな運営を心掛けていきますので、今後ともよろしくお願ひいたします。